

3月の県内経済は、東日本大震災ならびに原発事故の影響などにより生産活動から個人消費にいたるまで大幅に落ち込み、先行きの見通しも予断を許さない状況にある。

1. 平成23年3月の県内経済

県内経済は、3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災による地震・津波被害に加え、原発事故ならびにそれに伴う風評被害などにより、大幅な低下を余儀なくされた。

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、全ての品目で前年を下回り、合計では前年同月比25.7%減となった。乗用車新車販売も、震災の影響で各部門とも大幅に落ち込み、合計では同60.2%減となった。生産活動は、県内主要企業へのヒアリングによれば、前年に比し大幅に落ち込んだことが窺われ、また大口電力使用量も前年比40.2%減と16ヵ月ぶりに前年を下回った。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、件数が11ヵ月連続で、請負金額が7ヵ月連続で前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が3ヵ月ぶりに前年を上回った。新設住宅着工戸数は、持家、分譲が前年を下回り、合計では4ヵ月連続で前年を下回った。負債金額100万円以上の倒産件数は、2ヵ月連続で前年を下回ったが、負債総額は2ヵ月ぶりに前年を上回った。雇用情勢は、震災や原発事故で混乱が続く中、有効求人倍率、新規求人倍率とも改善の動きがみられるが、弱含みの状況が窺える。

〔消費動向・減少〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品、飲食料品を始め全ての品目で前年を下回り、合計では138億47百万円（前年同月比△25.7%）と前年を大きく下回った。乗用車新車販売は、普通車、小型車、軽乗用車の各部門とも大幅に落ち込み、合計では7ヵ月連続で前年を下回った。消費者物価指数は、前月比0.1%上昇し、2ヵ月ぶりに前月を上回った。また前年同月比では0.6%下降し、26ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、震災による物流の途絶などの影響により、薄型テレビなどのデジタル家電から冷蔵庫などの白物家電にいたるまで軒並み減少し、合計では前年を6割程度下回った。ホームセンターは、生活用品を中心に震災特需が生じ、園芸・植物等が低調だったものの、合計では前年を大きく上回った。旅行取扱額は、震災による交通機関の途絶や旅行マインドの悪化からキャンセルが相次ぎ、国内外とも前年を大きく下回った。

〔投資動向・減少〕

3月の公共工事前払保証取扱は、件数が11ヵ月連続で、請負金額、保証金額は7ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。2月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が3ヵ月ぶりに前年を上回った。床面積は2ヵ月連続で前年を上回ったが、工事費予定額は2ヵ月ぶりに前年を下回った。3月の新設住宅着工戸数は、持家、分譲が低迷し、合計では4ヵ月連続で前年を下回った。

〔生産活動・大幅に低下〕

東北経済産業局の発表によると、東北地方の3月の鉱工業生産指数（季節調整値）は、64.7と前月比△35.0%の大幅な下降となっており、県内の生産活動はそれと同等以上の厳しい状況にあるものとみられる（福島県の鉱工業指数：平成23年5月10日現在未公表）。また、3月の大口電力販売量は前年同月比△40.2%と、震災の影響で16ヵ月ぶりに前年を下回った。

〔企業倒産・一進一退〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が2ヵ月連続で前年を下回ったが、負債総額は、大型倒産の発生により2ヵ月ぶりに前年を上回った。

〔金融動向・貸出金減少〕

3月末の預金残高は前年同月比+2.6%と49ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は同△0.5%と17ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向・弱含み〕

有効求人倍率（季節調整値）は、0.49倍と7ヵ月ぶりに前月を下回り、原数値では0.50倍と12ヵ月連続で前年を上回った。また、新規求人倍率（季節調整値）は、0.79倍と2ヵ月ぶりに前月を上回り、原数値では0.76倍と14ヵ月連続で前年を上回った。データの改善の動きの裏で県内の雇用情勢は、震災や原発事故等で混乱が続いており、弱含みの状況にあるものと窺える。

県内経済動向の概要

	項 目	前 年 同 月 比					
		22年10月	11 月	12 月	23年1月	2 月	3 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	1.0	0.0	▲ 1.3	▲ 0.8	0.2	▲ 25.7
	乗用車新車登録台数	▲ 27.6	▲ 30.6	▲ 24.6	▲ 22.3	▲ 14.2	▲ 60.2
	消費者物価指数（総合）	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.6
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	▲ 25.7	▲ 3.9	▲ 6.0	▲ 42.9	▲ 33.9	▲ 48.9
	建設着工棟数（民間・非居住用）	▲ 1.4	53.2	▲ 10.5	▲ 2.7	3.7	—
	新設住宅着工戸数	▲ 2.6	15.7	▲ 6.9	▲ 7.0	▲ 29.4	▲ 21.0
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	5.3	6.0	3.6	—	—	—
	大口電力販売量	4.0	3.9	4.0	6.4	8.2	▲ 40.2
企業倒産	企業倒産件数注2	80.0	▲ 37.5	▲ 50.0	20.0	▲ 66.7	▲ 30.0
	企業倒産金額注2	615.2	394.1	191.6	385.7	▲ 74.0	126.8
金融動向	預 金	2.1	2.3	2.4	2.5	2.0	2.6
	貸 出 金	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 0.5
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注1	0.15	0.16	0.16	0.15	0.15	0.11
	新規求人倍率（パート含む）注1	0.18	0.07	0.12	0.16	0.08	0.09

注1 原指数 注2 負債総額10百万円以上

	項 目	前 月 比					
		22年10月	11 月	12 月	23年1月	2 月	3 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	4.9	▲0.4	27.0	▲ 13.9	▲ 15.7	▲ 16.6
	乗用車新車登録台数	▲ 36.1	4.7	▲ 18.9	22.7	22.1	▲ 25.3
	消費者物価指数（総合）	0.6	▲ 0.5	▲ 0.6	0.3	▲ 0.3	0.1
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	▲ 23.1	▲ 5.4	▲ 14.8	▲ 58.0	0.8	112.0
	建設着工棟数（民間・非居住用）	▲ 17.0	19.7	▲ 30.0	▲ 10.1	3.7	—
	新設住宅着工戸数	4.5	19.1	▲ 17.6	▲ 15.3	▲ 18.9	3.6
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	▲ 2.6	1.0	4.0	—	—	—
	大口電力販売量	▲ 0.1	▲ 2.3	0.1	0.9	▲ 4.7	▲ 40.5
企業倒産	企業倒産件数注2	28.6	▲ 44.4	40.0	71.4	▲ 75.0	133.3
	企業倒産金額注2	20.4	61.6	▲ 35.6	82.5	▲ 78.4	554.7
金融動向	預 金	0.2	0.3	1.3	▲ 0.8	▲ 0.0	0.8
	貸 出 金	0.3	▲ 0.8	0.6	▲ 0.3	0.0	0.4
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注1	0.00	0.01	0.01	0.03	0.00	▲ 0.01
	新規求人倍率（パート含む）注1	0.04	▲ 0.04	0.03	0.11	▲ 0.13	0.03

注1 季節調整値 注2 負債総額10百万円以上

2. 県内経済動向

消費動向

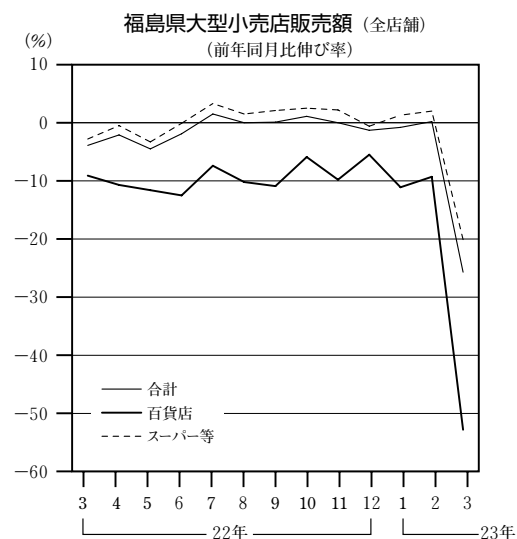
大型小売店 3月の県内大型小売店の販売額は、東日本大震災および原発事故等の影響から、衣料品、飲食料品、家具・家電・家庭用品など全ての品目で大幅に減少し、全店舗ベースで138億47百万円（前年同月比△25.7%）と前年を大きく下回った。また、既存店ベースでも前年同月比25.7%減となった。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、主力の衣料品、身の回り品などが前年を6割前後下回るなど大幅に減少し、全店舗ベースで15億7百万円（同△52.8%）と前年比半減した。また、既存店ベースでも前年同月比52.5%減となった。

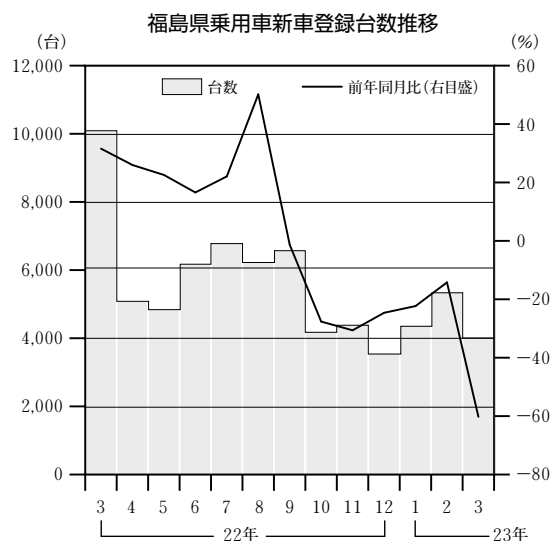
スーパーは、震災による飲食料品や家庭用品での特需が発生したものの、原発事故や物流機能の停滞などの影響で商品調達が進まず、主力の飲食料品で前年比14.0%減となるなど減少を余儀なくされ、全店舗ベースでは123億41百万円（同△20.1%）と前年を大きく下回った。また、既存店ベースでも前年同月比20.1%減となった。

乗用車販売 3月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で4,036台（前年同月比△60.2%）と、東日本大震災等の影響から各部門とも大幅に減少し、7ヵ月連続の前年割れとなった。車種別で見ると、普通車は1,093台（同△65.0%）と6ヵ月連続で前年を下回った。小型車は1,601台（同△57.3%）と7ヵ月連続で前年を下回った。軽乗用車は1,342台（同△59.0%）と6ヵ月連続で前年を下回った。

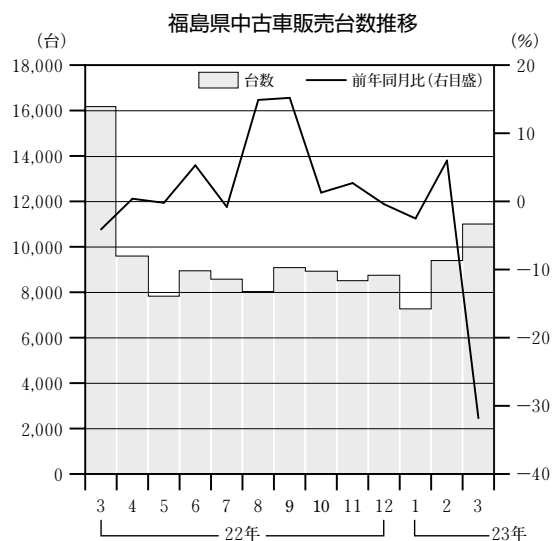
3月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で11,107台（前年同月比△31.8%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別にみると普通車は2,952台（同△31.3%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。小型車は4,144台



（資料：経済産業省）



（資料：㈱日本自動車販売協会連合会福島県支部）



（注）軽自動車は名義変更台数含む
資料：㈱日本自動車販売協会連合会 福島支部
㈱全国軽自動車販売協会連合会

(同△35.2%)と2ヵ月ぶりに前年を下回った。軽乗用車は4,011台(同△28.2%)と4ヵ月ぶりに前年を下回った。

消費者物価指数 3月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)でみると、99.3(前月比+0.1%)となり、2ヵ月ぶりに前月を上回った。前年同月比では0.6%下がり、26ヵ月連続で下降した。

費目別の指数動向をみると、「被服及び履物」が95.0(前月比+5.1%)、「交通通信」が100.0(同+1.3%)、「光熱・水道」が108.2(同+0.6%)、「教養娯楽」が93.5(同+0.2%)、「諸雑費」が108.9(同+0.1%)と5費目で前月上昇した。一方、「食料」が103.6(同△1.0%)、「保健医療」が95.3(同△0.4%)、「住居」が96.7(同△0.2%)と3費目で前月比下降した。また、「家具・家事用品」は89.2、「教育」は82.9となり、前月と同じであった。

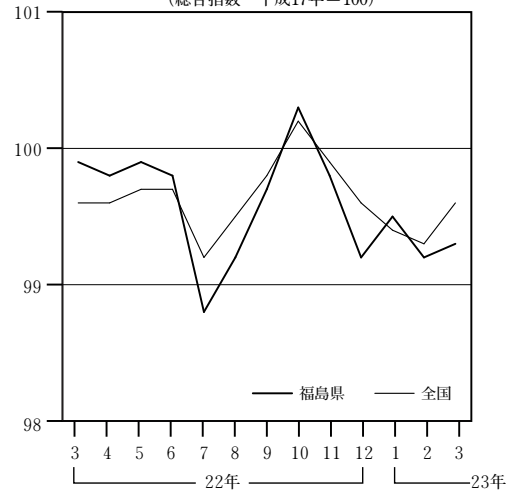
家電量販店 3月の売上状況は、震災による物流の途絶などの影響から、主力の薄型テレビで前年比6~7割減少したほか、パソコン、携帯電話などのデジタル家電から冷蔵庫、洗濯機などの白物家電にいたるまで軒並み減少し、合計では前年を6割程度下回った。

ホームセンター 3月の売上は、生活用品を中心に震災特需が生じ、日用品、家庭用品、電化製品などが大きく伸び、園芸・植物等が低調だったものの、合計では前年を大きく上回り推移した。

旅行 3月の旅行取扱額実績は、震災による交通機関の途絶や旅行マインド悪化の影響から、キャンセルが相次ぎ、国内外とも前年を大きく下回った。

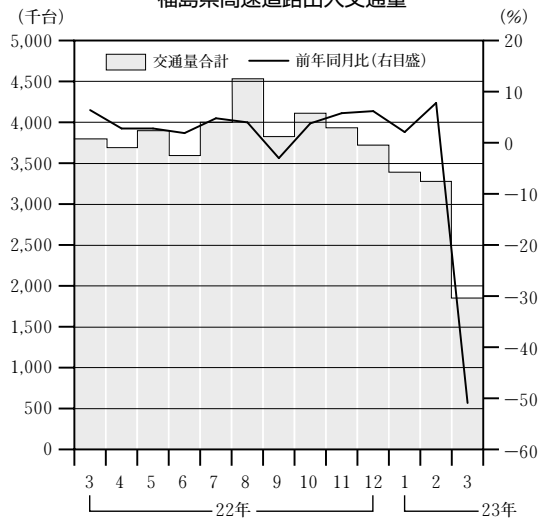
高速道路 3月の県内自動車道出入台数は、東日本大震災および原発事故等の影響から、1,881,893台(前年同月比△50.9%)と6ヵ月ぶりに前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道(白河IC~国見IC)は1,157,639(同△48.4%)と16ヵ月ぶりに前年を下回った。磐越自動車道(いわき三和IC~郡山東IC)は125,864台(同△51.4%)

福島県消費者物価指数
(総合指数 平成17年=100)



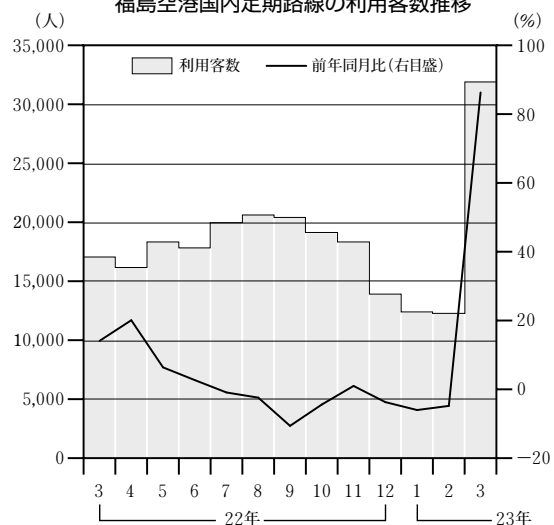
(資料:総務省統計局)

福島県高速道路出入交通量



(資料:東日本高速道路(株)東北支社)

福島空港国内定期路線の利用客数推移



(資料:福島県商工労働部空港交流課)

と13ヵ月ぶりに前年を下回った。磐越自動車道（磐梯熱海 IC～西会津 IC）は248,130台（同△53.7%）と5ヵ月ぶりに前年を下回った。常磐自動車道（いわき勿来 IC～常磐富岡 IC）は350,260台（同△55.6%）と6ヵ月ぶりに前年を下回った。

※東日本大震災後の高速道路開通状況（一般車輛）

◆東北自動車道（白河～国見） 3/24 6：00より

◆磐越自動車道（いわき三和～郡山東）

3/24 6：00より

◆磐越自動車道（磐梯熱海～西会津） 3/24 6：00より

◆常磐道（いわき勿来～いわき中央） 3/21 10：00より

なお、同路線四倉までは4/1 10：00より、広野までは4/28 13：00より開通。

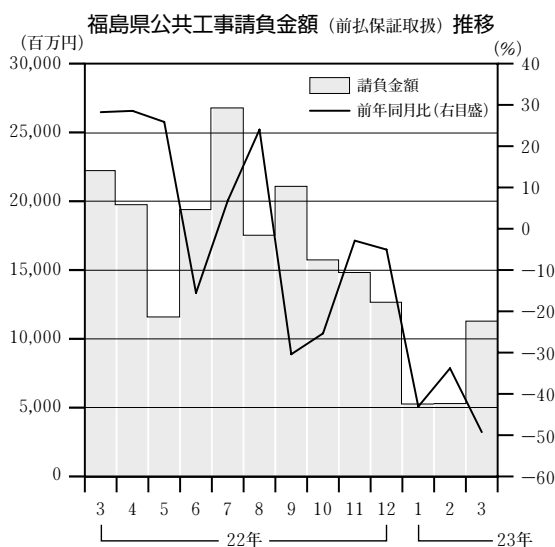
福島空港 3月の福島空港国内定期路線の利用状況は、32,090人（前年同月比+86.3%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は10,563人（同+43.1%）、大阪便は9,828人（同△0.1%）となった。また、津波被害による仙台空港の閉鎖に伴い、補完便として羽田便が9,356人、名古屋便が2,343人となった。一方、国際定期路線の利用状況は、1,486人（同△65.2%）と前年を大幅に下回った。路線別にみると、ソウル便は1,049人（同△62.4%）、上海便は437人（同△70.5%）となった。

（注）上海便は3/17より、ソウル便は3/19より運休。

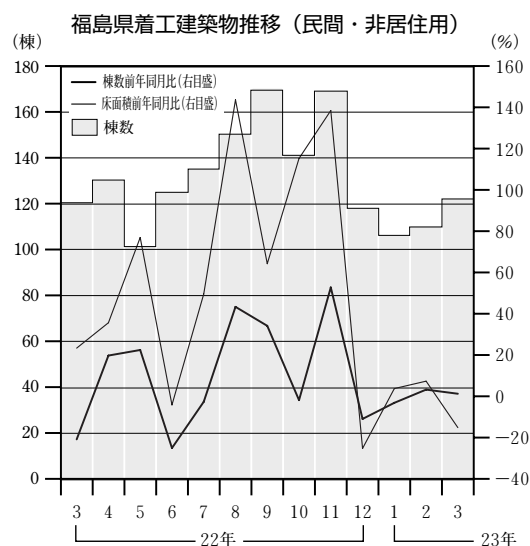
投資動向

公共工事 3月の公共工事前払保証取扱は、件数が292件（前年同月比△17.3%）と11ヵ月連続で前年を下回った。請負金額は113億80百万円（同△48.9%）、保証金額は51億59百万円（同△33.9%）となり、それぞれ7ヵ月連続で前年を下回った。

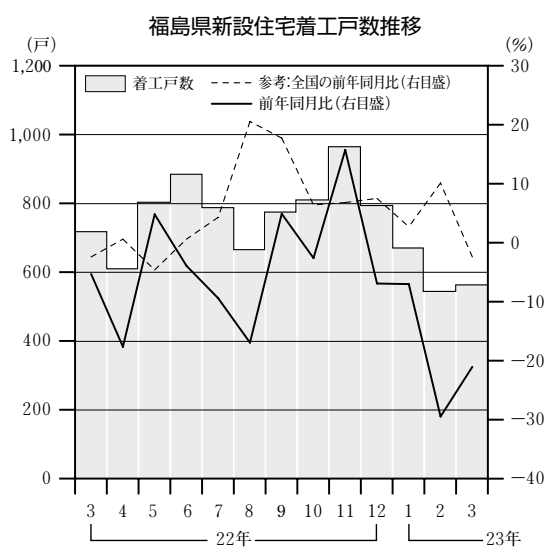
なお、年度累計（平成22年4月～平成23年3月）では、件数が前年同期比911件減少し、6,056件（前年同期比△13.1%）、請負金額が同266億58百万円減少し、1,817億51百万円（同△12.8%）、保証金額が109億31百万円減少し、689億13百万円（同



（資料：東日本建設業保証㈱）



（資料：国土交通省）



（資料：国土交通省）

△13.7%) となっている。

3月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比87億72百万円減少し、43億55百万円(同△66.8%)となった。独立行政法人等(東日本高速道路(株)など)は同96百万円増加し、99百万円(同+3200.0%)となった。県は同14億92百万円増加し、41億36百万円(同+56.4%)となった。市町村は同21億3百万円減少し、25億38百万円(同△45.3%)となった。

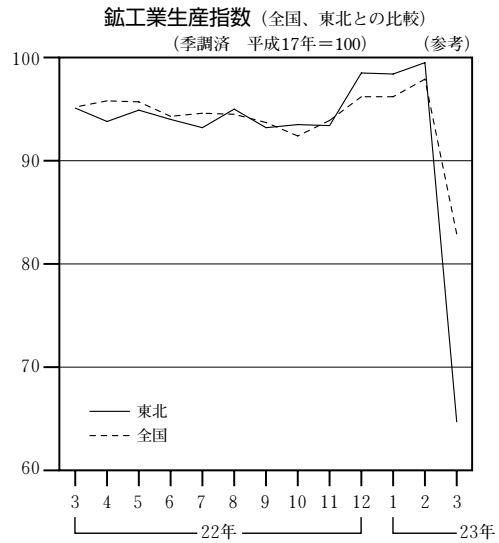
設備投資 2月の建築着工(民間・非居住用)は、棟数が111棟(前年同月比+3.7%)と3ヵ月ぶりに前年を上回った。床面積は31,269㎡(同+7.8%)と2ヵ月連続で前年を上回った。工事費予定額は34億8百万円(同△36.4%)となり、2ヵ月ぶりに前年を下回った。

なお、3月の建築物確認件数および建築物申請件数については、未公表(平成23年5月10日現在)。

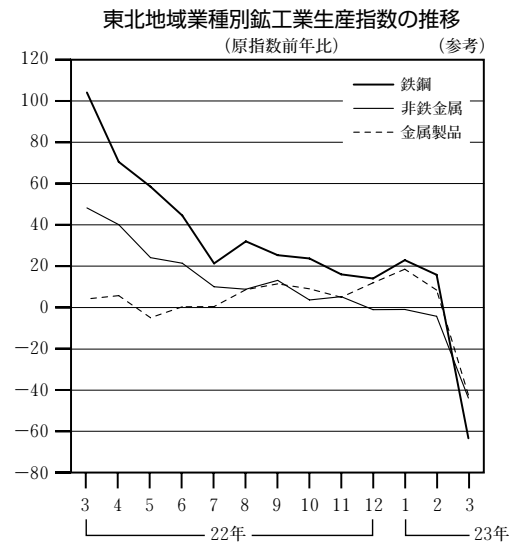
住宅建設 3月の県内新設住宅着工戸数は、568戸(前年同月比△21.0%)と4ヵ月連続で前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は286戸(同△27.6%)と2ヵ月連続で前年を下回った。「貸家」は256戸(同±0%)と前年と同じであった。「分譲」は26戸(同△52.7%)と3ヵ月ぶりに前年を下回った。うちマンションの着工戸数は、4ヵ月連続でゼロとなった。

生産活動

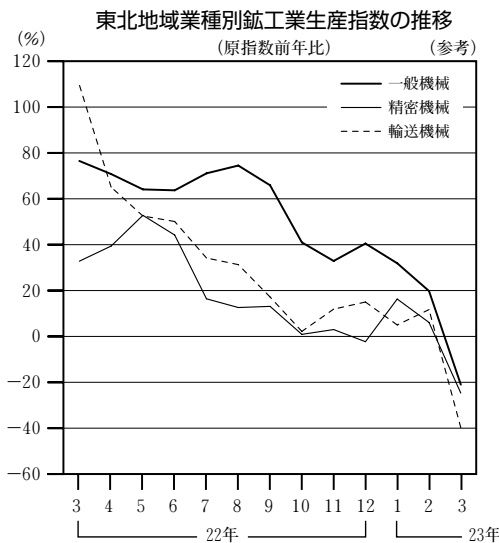
鉱工業生産指数 東北経済産業局の発表によれば*、東北地域(6県合計)の鉱工業生産指数(季節調整値)は、東日本大震災により多くの事業所が生産活動を停止したことから、64.7(前月比△35.0%)と大幅に低下した。低下に寄与した主な業種についてみると、化学工業が65.3(前月比△47.1%)、輸送機械工業が66.6(同43.8%)、情報通信機械工業が56.5(同△29.1%)、電子部品・デバイス工業が96.1(同△28.5%)などとなっている。



(資料：東北経済産業局)



(資料：東北経済産業局)



(資料：東北経済産業局)

※福島県では、平成23年1月分より鉱工業指数について未公表（平成23年5月10日現在）。本稿では参考として東北地域の動向を掲載。なお図表についても同様。

化学 3月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、炭素繊維の生産は、震災以降の操業停止により、前年比3分の1の水準で推移した。また、酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）やバリウム化合物（電子部品原料）の生産も、前年の3割程度の水準で推移した。

鉄鋼・金属 3月の伸銅品の生産は、震災によるブランクはあったものの、前年比8割程度の水準で推移した。建機用鋳造品の生産は、前年を1割程度下回り推移した。車両用鋳造品は、前年比7割程度の水準で推移した。陸船用バルブの生産は、前年比6割程度の水準で推移した。

輸送用機械 3月の自動車用鋳造品の生産は、資材調達難から、前年比5割程度で推移した。自動車用オイルシールの生産は、受注減による調整から、前年比7割程度の水準で推移した。カーナビ・カーオーディオの生産は、操業ブランクの影響から前年比7割程度の水準で推移した。

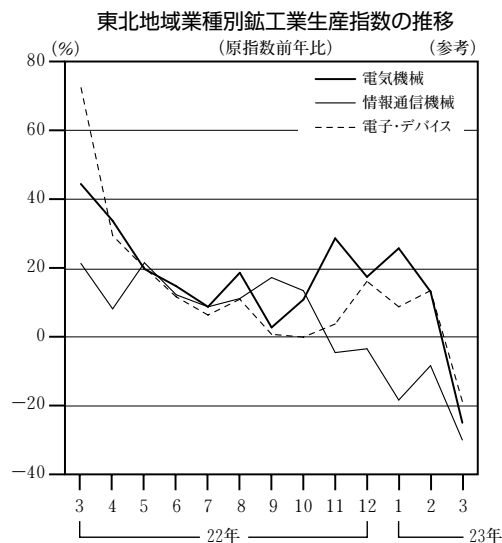
電気機械 3月の配電盤、変圧器、自動車モーターの生産は、総じて前年並みの水準で推移した。

情報通信機械 3月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、前年をやや下回り推移した。衛星通信機器関連、FA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

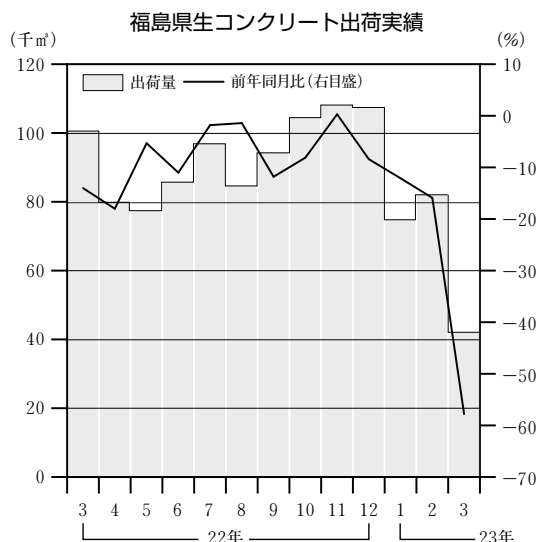
電子部品・デバイス 3月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品、産業機械が前年を上回ったが、震災による操業ブランクの影響から、全体では前年を1割程度下回った。

精密機械 3月の医療用内視鏡の生産は、操業ブランクの影響で、前年を1割程度下回った。デジタル一眼レフカメラ用レンズの生産は、欧米向が主体で震災の影響も軽微に止まり、前年並みの水準で推移した。

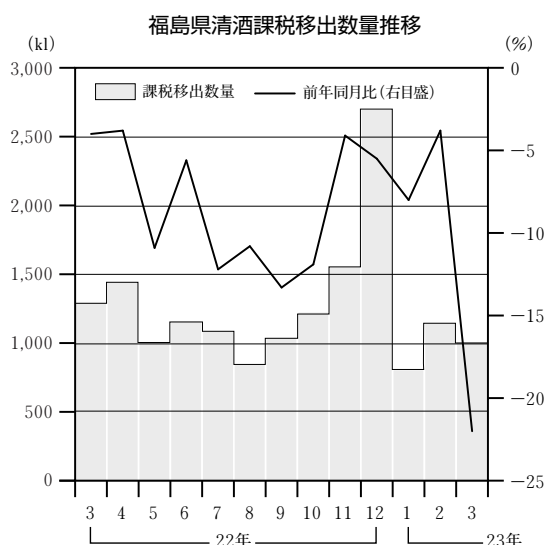
紙・紙加工品 3月のダンボールの生産は、前年を3割程度下回り推移した。ノーカーボン紙およ



(資料：東北経済産業局)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)

び感熱紙の生産は、震災による操業ブランクの影響で、前年比6割程度水準で推移した。

窯業・土石 3月の生コンクリート出荷量は、全体で42,698m³（前年同月比△57.8%）と4ヵ月連続で前年を下回った。東日本大震災等の影響で、官公需は前年同月比60.9%減、民需は同51.1%減となり、それぞれ大幅に落ち込んだ。

清酒 3月の清酒移出数量は、1,020kl（前年同月比△22.0%）と30ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が320kl（同△24.7%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、700kl（同△20.7%）と30ヵ月連続で前年を下回った。

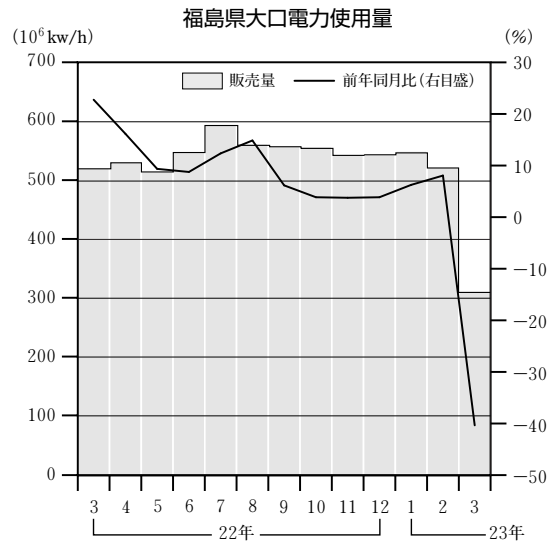
化合繊維物 3月のナイロンの生産（ダウンジャケット・表地向け）およびポリエステル（紳士服・婦人服の裏地向け）は、震災による操業ブランクの影響で、前年比6割程度水準で推移した。

ニット 3月のニットの生産は、操業の落ち込みから、前年比7割程度水準で推移した。

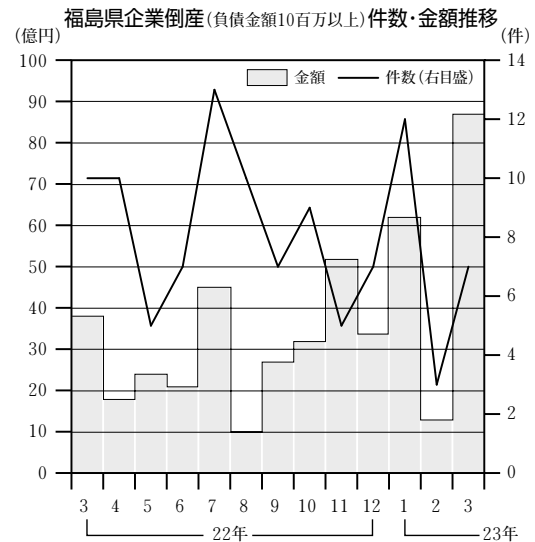
大口電力 3月の大口電力販売量は、311百万kw/h（前年同月比△40.2%）と16ヵ月ぶりに前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「電気機械」で67百万kw/h（前年同月比△33.6%）、「非鉄金属」で52百万kw/h（同△50.8%）、「輸送用機械」で41百万kw/h（同△31.1%）、「化学」で25百万kw/h（同△51.5%）、「一般機械」で19百万kw/h（同△26.7%）、「紙・パルプ」で7百万kw/h（同△56.0%）となっており、震災被害の影響（生産設備損傷、工業用水断水等）で、特に非鉄金属と化学で大きく落ち込んだ。

—— 企業倒産 ——

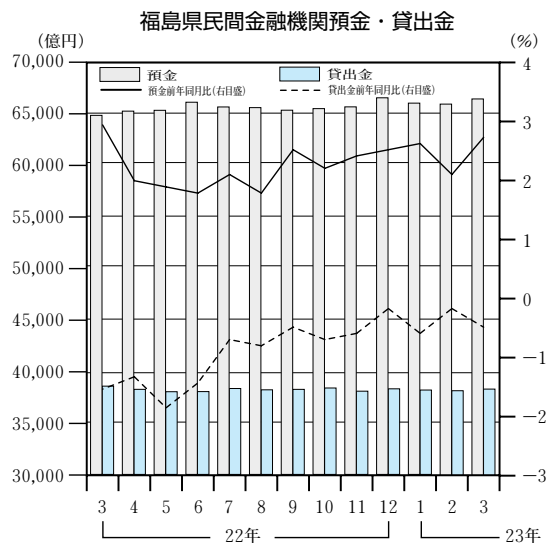
企業倒産 3月の企業倒産（負債金額100万円以上）は、倒産件数が7件（前年同月比△30.0%）となり、2ヵ月連続で前年を下回った。負債総額は、



(資料：東北電力福島支店)



(資料：帝国データバンク福島支店)



(資料：日本銀行福島支店)

大型倒産の発生により87億7百万円（同+126.8%）となり、2ヵ月ぶりに前年を上回った。

年間累計（2011年1月～3月）では、倒産件数が前年同期比7件減少し、22件（前年同期比△24.1%）、負債金額が同57億79百万円増加し、162億1百万円（同+58.5%）となっている。

倒産主因別内訳は、全7件中5件が受注・販売不振であった。業種別内訳は、運輸・通信業、サービス業が各3件、卸売業が1件となった。また、地区別内訳は、県北（本宮市以北）が2件、県南（郡山市以南）が0件、会津が2件、浜通りが3件となった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の3月末の預金残高は、6兆6,541億円（前年同月比+2.6%）と49ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,368億円（同△0.5%）と17ヵ月連続で前年を下回った。

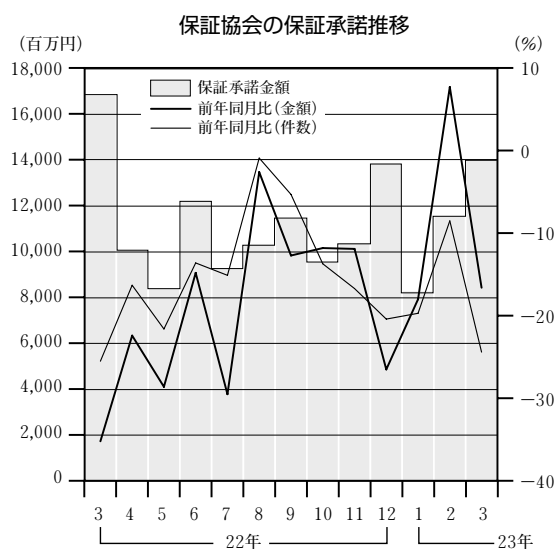
保証協会 3月の保証承諾は、件数が1,212件（前年同月比△24.3%）、保証金額が140億92百万円（同△16.5%）となった。3月末日現在の保証債務残高は、件数が42,122件（同△4.0%）、金額が3,429億92百万円（同△4.2%）となった。また、3月中の代位弁済は、件数が120件（同△21.1%）、金額が13億52百万円（同+14.9%）となり、件数は11ヵ月連続で前年を下回ったが、金額は2ヵ月連続で前年を上回った。

雇用動向

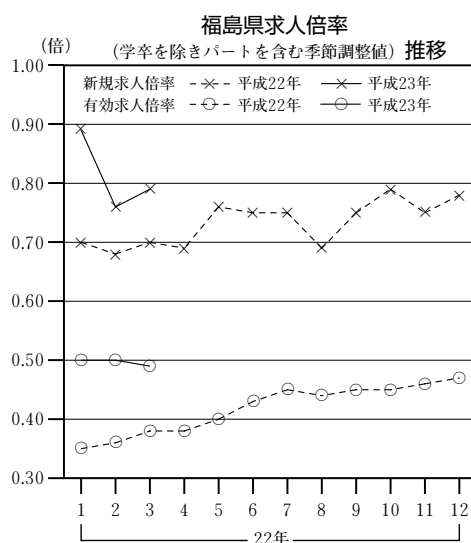
雇用動向 3月の新規求人数（原数値）は、8,156人（前年同月比△16.8%）と13ヵ月ぶりに前年を下回った。新規求職申込件数（原数値）は、10,703件（同△26.4%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、

0.79倍（前月比+0.03_㊦）と2ヵ月ぶりに前月を上回った。原数値は0.76倍（前年同月比+0.09_㊦）と14ヵ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.49倍（前月比△0.01_㊦）と7ヵ月ぶりに前年を下回った。原数値は0.50倍（前年同月比+0.11_㊦）と12ヵ月連続で前年を上回った。



(資料：福島県信用保証協会)



(資料：福島労働局職業安定部)